

●復活後第四主日

泉のほとり

今月の詩編「第九十六編」

主は来られる、

地を裁くために来られる。

主は世界を正しく裁き

真実をもって諸国の民を裁かれる。



試練を喜びとする

ヤコブの手紙を書いたのは、主イエスが幼少の頃からナザレで共に生活していた、ヨセフとマリアの子である弟のヤコブです。この世の中では、著名な人の身内というだけで「誰それさんの家族です」「兄弟です」「父、母です」と紹介され、そのことで評価されることも少なくありません。その関係性を誇りとし、前面に出して自分を示すことをパウロは「肉に頼る」と表現しています。もしヤコブが肉に従って生きていたならば、「イエスの弟」「私の兄イエス」と紹介し、「うちの兄は」とまではしなくとも、手紙の端々に自分が肉による家族であることを誇示したことでしょう。しかし、ヤコブは手紙の冒頭で「神と主イエス・キリストの僕であるヤコブ」と明確に記しています。ヤコブはもはやイエスを肉によって知る者ではありませんでした。

ヤコブは「離散している十二部族へ挨拶する」という短い一文だけで、前置きもなく本題に入ります。「私の兄弟たち、いろいろな試練にあうときは、この上ない喜びと思いなさい」と。この「いろいろな試練」とはすべての試練を信仰者が「喜び」とするようにと教えているようです。とういのは、試練を通ることが、この上ない喜びの結果になる、その真相を見ているからです。

ヤコブは続けて「信仰が試されることで忍耐が生じると、あなたがたは知っています」と語ります。「試される」とは純粋なものにするための「精錬」を意味しています。

試練にあうと、世の人々は原因究明に目を傾けます。「この人、あの人、何々のせい」、「この社会や国の問題」との声を発するのです。また苦しみを晴らすため、それをぶつける相手を探します。しかし、そのような心のあり方はますます試練に耐え得なくし、怒りや不平、人への悪口、裁きへと陥れるのです。

私たちはそのようなこの世の見方をしません。ヤコブは「私の信仰が試されている」と直視するようにと

教えているのです。そして「忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、完全で申し分なく、何一つ欠けたところのない人になります」と続けます。召された民を霊的な賜物に富む人にするために試練がある。

それに伴う忍耐の結果は、比にならない賜物なのです。だから「この上ない喜びと思いなさい」と証しているのです。その実がいかに素晴らしいものであるのかを知らば、忍耐も単なる我慢ではなく、喜びを前もって味わうその希望の中の忍耐となるのです。

神からの賜物は、勉強や文字の理解によって得られるものではありません。時には火を通るような精錬を通して、神は私たちを新しくしてください。ヤコブの教えは彼自身も多くの試練にあり、信仰が試され、忍耐の限りを尽くした人だからこの教えです。様々な試練を通り抜けた人の証しであって、彼は人の苦しみに同情できない人ではないのです。そして、なお自分自身に新たな試練があることも知り、彼自身もそれを喜びとする信仰に生きる者だからこの教えです。その彼の信仰の証しが「試練にあうとき、この上ない喜びと思いなさい」と集約されているのです。

この世の宗教はこの世での繁盛や繁栄、困難もなく、試練や苦しみなどを避けるために、人が作り出したものです。しかし、教会は「キリスト者になれば困難も試練もない」とは教えていません。使徒たちは試練がある。困難や苦しみもあると教えています。それらを避けることより、まっすぐに通り抜けるよう教え、そこから神からの賜物を見つるよう促しています。それを「喜びとし、忍耐を完全に働かせなさい」と教えているのです。

人にはいろいろな試練があります。天の父が知らない試練は一つありません。そこに私の信仰が試される神のお働きがあることを記憶しましょう。完全に傷のない者とならせるための神の御心が働いていることを喜びましょう。そこには、世が与える安楽や繁栄とは比べ物にならない、神の宝が隠されているからです。

2025年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《今日のお知らせ》

○ 定例役員会をカナルルームで行います。役員の方はお集まりください。

○ 次回の洗礼式、転入会式は七月二〇日です。その時に受洗・転入会をご希望の方は願書をお書きになり、本日まで牧師宛ご提出ください。願書は事務所にあります。

○ コイノニアキャンプのための献金にご協力をお願いいたします。

献金袋は事務所窓口横にご用意しておりますので、ご利用ください。皆さまのお祈りと献金を通して、コイノニアキャンプをお支えください。

《ぶどうの会より》

ぶどうの会を第二・三シオンルームで行います。

《教会学校より》

市橋先生のお話の会 お知らせ

次週、教会学校ではケニアの市橋先生をお迎えし、子ども礼拝後にお話を伺います。教会の皆様もぜひご参加ください。

・ 日時 五月二十五日(日)九時二〇分～一〇時二〇分

・ 場所 地下ホール

・ 当日の流れ

子ども礼拝 礼拝説教 宮間彰広兄

← 分級 お話 市橋隆雄 牧師

※教育プログラムですので、礼拝からご参加ください。やむをえず分級から参加なさる方は、ホール外で礼拝の終了をお待ちいただき、静かに入室してくださいませう、お願い申し上げます。

《ルツの会より》

次週、二五(日)礼拝後、カナルルームでルツの会を行います。民数記一～二章から学びます。聖書、讃美歌をお持ちの上、ご参加ください。

《交読詩篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

〔司・会〕の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇九十六篇】

新しい歌を主に向かつて歌え。

全地よ、主に向かつて歌え。

主に向かつて歌い、御名をたたえよ。

日から日へ、御救いの良い知らせを告げよ。

国々に主の栄光を語り伝えよ

諸国の民にその驚くべき御業を。

大いなる主、大いに賛美される主

神々を超えて、最も畏るべき方。

諸国の民の神々はすべてむなし。

主は天を造られ

御前には栄光と輝きがあり

聖所には力と光輝がある。

諸国の民よ、こぞつて主に帰せよ

栄光と力を主に帰せよ。

御名の栄光を主に帰せよ。

供え物を携えて神の庭に入り

聖なる輝きに満ちる主にひれ伏せ。

全地よ、御前におののけ。

国々にふれて言え、主こそ王と。

世界は固く据えられ、

決して揺らぐことがない。

主は諸国の民を公平に裁かれる。

天よ、喜び祝え、地よ、喜び躍れ

海とそこに満ちるものよ、とどろけ

野とそこにあるすべてのものよ、喜び勇め

森の木々よ、共に喜び歌え

主を迎えて。

主は来られる、地を裁くために来られる。

〔司・会〕

主は世界を正しく裁き

真実をもって諸国の民を裁かれる。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「その日その時を」

聖書 マタイ25章1～13節

説教者 吉村和雄 名誉牧師

《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「与えられた賜物を用いる」

聖書 マタイ25章14～29節

説教者 宮間彰広 兄

●主日礼拝（午前10時30分・礼拝堂）

讃美歌 156番 279番

説教 「知恵を得るために」

聖書 ヤコブ1章5～11節

説教者 黄允湜 牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 148番 322番
説教 「まことの神に聞き従う」
聖書 使徒7章38～43節(新約 P.226)
司式 石川 一 兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師
説教者 宮間 彰広 兄

前奏曲「我は心より汝を愛す」 J.P.スウェーリン

○讃美歌148番

1.すくいぬしは ハレルヤ

よみがえりたもうハレルヤ

かちどきあげて ハレルヤ

み名をたたえよ ハレルヤ

2.十字架をしのび ハレルヤ

死にて死にかち ハレルヤ

生きていのちを ハレルヤ

ひとにぞたまう ハレルヤ

3.主の死によりて ハレルヤ

すくいはなりぬ ハレルヤ

あまつつかいと ハレルヤ

ともにぞうたわん ハレルヤ

アーメン

○聖歌隊による讃美

「主は勝たれた」 B.J.リーチ 作曲

何も起きないように 敵は勝ち誇るように

闇暗く見える今 彼は死に勝たれた

悲しみに立ち尽くし 救けは望めないように

闇深く見える今 彼は死に勝たれた

灰より再び 燃え出る火のように

よみがえりの力もて 主はわれらをも

立たせたもう 祈りはきかれぬように

望みは空しいように 見える時にこそ主は

御顔を示して 勝利を 得させたもう

○讃美歌322番

1.神よ おじかの 谷川の 水をしたいて あえぐごと

わがたましいは 活ける神 したいまつりて あえぐなり

2. わがあだびとは かこみたち われにむかいて 「汝が神は

いずこにある」と ののしれば なみだぞつねに 糧なりし

3. わがたましいは うなだれて おもいは内に みだれけり

大瀑ひびき 淵こたえ 大波われを こえゆけり

4. わがたましいよ いかなれば おもいみだれて うなだるる

岩なる神を 待ちのぞめ われに御顔の たすけあり

アーメン

聖餐曲「静けき祈りの」 D.ウッド 他

後奏曲「ピアノのための前奏曲 変イ長調」

F.メンデルスゾーン

ン